

1 研究主題

子どもたちの命を守り、安全に生活できる学校を目指して
 — 「これならできる！やってみよう！」と実感できる取組を通して —

2 はじめに

本研究会では、昨年度までの研究において、『子ども』『教職員』『養護教諭』の救急処置における課題を探るために、実態調査の実施・分析を行ってきた。そして、その結果に基づき、課題解決に向けた実践に取り組んできた。『子ども』グループでは、けが予防のための保健教育や部活動時の健康観察強化に取り組んだ。『教職員』グループでは、各校でシミュレーション研修を実施し、教職員の意識変容を調査した。『養護教諭』グループでは、病院受診か否かの判断に最も迷う「頭部打撲」についてシミュレーション研修を実施し、的確に対応するため「頭部打撲アセスメントシート」を作成した。

研究計画では、今年度は学習会の実施や救急処置についての情報交換会を行うなど、『養護教諭』の知識・技能を高める実践を予定していた。しかし、新型コロナウイルス感染予防のため、計画通りの実践が困難な状況が続いている。

そこで今年度は、各学校での養護教諭による救急処置の事例を、「これならできる」「やってみよう」の視点でシートにまとめ、校務支援ネットワークを活用して、課題やその解決方法を共有することにした。それにより、救急処置の力量向上を図り、子どもたちの命を守り、安全に生活できる学校を目指したいと考えた。

3 研究経過

(1) 研究の仮説

事例紹介シートと意見交流シートを使って、救急処置に関する事例を紹介する機会をもち、「これならできる」「やってみよう」と感じた点を共有し学び合うことで、養護教諭の救急処置に関する判断力や対応力が高まるであろう。

(2) 研究の計画

	実践内容	手だて	評価
令和 元年度	学校における救急処置の課題の再検討	実態調査の実施、分析、過去の結果との比較	調査分析による取組内容の明確化、部員による評価(感想)
令和 2年度	実践の紹介 課題と解決方法の共有	事例紹介シート 意見交流シート	
令和 3年度	実践、実践のふりかえり 研究のまとめ	事例のデータベース化 情報交換会、学習会	

4 研究の概要

各校の養護教諭が経験した救急処置の事例を共有し、意見交流を行った。校務支援ネットワークを活用し、各自が「事例紹介シート」に記入した後、事例の内容を基に、8つのグループに分けた。事例のテーマは「食物アレルギー」「頭部打撲」「熱中症」「その他」である。その後、グループごとの「意見交流シート」に、その事例に対する感想や意見を各自が記入し、集まったコメントからさらに学びを深めた。

(1) 「事例紹介シート」への取組

症状や経過等の情報からどのような判断をして、どのような処置に至ったのかを知ることによって、災害発生時の判断力や対応力を養うことを目的とし、シートを作成した【資料1】。救急処置の事実だけではなく、校内の連絡体制や教職員の連携等を振り返ることができるよう、養護教諭から教職員にどのように働きかけ、連絡をしたか記入できる欄を設けた。また、自分の対応を振り返って、「これならできる」「やってよかった」点を記入するようにした。

ふりかえりでは、「事例紹介シート」への記入によって、自分の救急処置の様子を振り返ることができた養護教諭が96%であった【図1】。また、「事例紹介シート」が救急処置の課題解決や知識・対応力向上につながると思うかを尋ねたところ、全ての養護教諭が「思う」「まあまあ思う」と回答した。記述では「自分の視点から事例を振り返るだけでなく、違う視点から事例を振り返ることで、自分の対応、組織としての対応について考えることができた」「記録や災害現場の写真撮影など、慌てると忘れがちなことを再認識した」というふりかえりがあった。

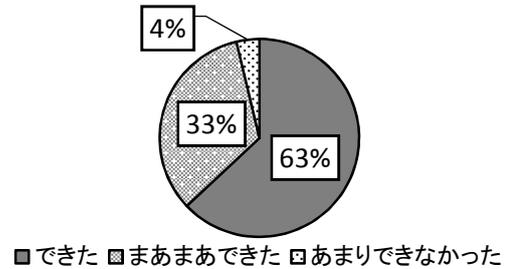
(2) 「意見交流シート」への取組

経験年数の偏りがないようにグループを構成した。多様な視点から事例を見直し、助言し合うことで、養護教諭の疑問点や困り感の解決と救急処置のスキルアップを図った【資料2】。

【資料1】「事例紹介シート」(抜粋)

<p>4 養護教諭からの働きかけ・連絡(いつ、誰が、誰に、どのように、…連絡したかわかるように記述する)。</p> <p>担任 ・保健室休養後、養護教諭が本人に付き添って教室へ連れて行き、担任に、保健室での経過観察の状況と、応急手当について説明し、下校前の家庭連絡(負傷の状況、応急手当の内容、現在の様子、家庭での過ごし方)を依頼。(14:00)。</p> <p>・翌日、養護教諭から担任に、受診状況を確認。受診せず家庭で様子をみて、元気に登校した。</p> <p>管理職 ・養護教諭が保健室で管理職に今回の事例について報告。(下校後)</p>
<p>5 「これならできる!」「やってよかった!」こと、対応に困った点にどのように対応したか、今後改善したいことや身につけたいこと、疑問点、共有・紹介したいこと など</p> <p>「これならできる!」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生には受傷状況をうまく説明できないことが多いため、周りから情報をうまく聞き取れないことも含め、大事をとって休養させた方がいいのかなと思った。 ・本人が痛いと言った場所以外もしっかりと触診することが必要だと思った。 <p>「やってよかった!」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軽症だと判断したため、「頭部打撲アセスメントシート」の全項目の記録はしなかったが、検査などを漏れなく行うことができた。 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回は軽症だが、今後、心配な児童は保護者に頭部打撲シートのコピーを渡した方がいいのか。 ・視力検査や聴力検査は軽症でも実施すべきか。 ・頭部を強く打ったか心配な状況での保健室休養は、何分くらいさせるべきか。

【図1】事例紹介シートへの記入で、救急処置の様子を振り返ることができたか



活動後のふりかえりでは、「意見交流シート」が救急処置の課題解決や知識・対応力向上につながると思うかを尋ねたところ、全ての養護教諭が「思う」「まあまあ思う」と回答した【図2】。記述では「同じような事例でも、他校の対応の工夫を知ることで自校の足りないところを改善できるヒントになった」「データ上ではあったが、養護教諭同士のつながりを感じた。他の先生方と同じ気持ちを共有できて心強かった」というふりかえりがあった。

(3) 成果

(1)(2)の取組を通して、少経験の養護教諭からは「経験したことのない事例を学ぶことができ、緊急時の備えになった。重要な症状を見逃さないようにしたい」というふりかえりを得た。ベテランの養護教諭からは「意見交流を通して、自分の判断や対応を経験として蓄積できる。経験年数の違いに関わらず、自分の力量が高まる」との意見があった。養護教諭自身の救急処置に関する知識や対応力だけでなく、校内の緊急時の体制づくりにもつながるといった意見もあり、学校の安全について考えることができた。

さらに、「他のグループのメンバーも意見を記入できると、よりよい学びになるのではないか」「次年度以降も事例を集めていくとともに、事故が起きた際に、すぐに情報共有ができる仕組みができるとよい」「事例に対し、専門家の意見が聞けるとよいのでは」などの意見もあった。

今回の取組は、シートを使った事例共有と意見交流を行うことで、自校の救急処置の課題解決や経験の蓄積につながり、養護教諭が救急処置への自信をもつきっかけとなった。また、会合での情報交換が難しい状況であっても、校務支援ネットワークを活用することで、個々の養護教諭のつながりを深める機会にできた。今後も、救急処置に関する情報交換を重ねることで、「これならできると実感できる機会を増やし、救急処置の判断力や対応力の向上に努めたい。

5 今後の課題

今後は、「事例紹介シート」などのデータベース化を図り、救急処置に困った時や教職員の危機意識を高めるための資料として活用し、子どもたちの安全を守りたい。また、地域の医療機関や救急処置の工夫、エピペンシミュレーション研修についての情報交換や、講師を招いた学習会などを実施し、救急処置の力量向上を目指したい。

【資料2】「意見紹介シート」(抜粋)

<p>〇〇小 △△先生の事例について</p> <p>① 「これならできると」思ったところ、学んだところ、活用したいところ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事例の児童が1年生であることから、学校の給食時にアレルギーの初発になる恐れがあることを視野に入れて行動することの大切さを痛感しました。所見としてみられる症状が消化器症状のみで、元気な様子を見ていたら、自身であっから見逃してしまっていたかもしれません。(◇◇) ・ 血圧測定について、本校では恥ずかしながらほとんど使用をしていなく、明らかな症状がある児童のみ測定をしています。今回の事例から、よりきめ細やかな対応をするために、血圧測定をとり行えるよう努めたいです。(◇◇) ・ 毎日の保健室対応の中で、1つの症状での来室で食物アレルギーを疑うのは難しいですが、気をぬかず、給食後の来室は食物アレルギーを疑って対応することが重要だと思いました。(□□) ・ 血圧は自分もなかなか測定できていないのが現状です。どんなときでもバイタルサインを確認することを心がけていきたいです。(□□) <p>② 疑問点や困った点の解決に向けて(こうしてみたら?、自分ならこうしてみる、等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の話ですが、自分は食物アレルギーがでたときに症状は、腹痛・嘔吐のみで一切皮膚症状はでなかつたです。嘔吐は何回か続きました。(大人になってからの話で、子どもだとまだ違うかもしれません。)(□□)
--

【図2】意見交流シートは、救急処置の課題解決につながると思うか

